

EIKO UPRESS (人+人+人)×情報=∞



考えよう。障害者雇用。

近年、厚生労働省では障害のある人が障害のない人と同様、その能力と適性に応じた雇用の場に就き、地域で自立した生活を送ることができるような社会の実現を目指し、障害のある人の雇用対策を総合的に推進しています。障害者の雇用対策としては、障害者雇用促進法において、**50人以上の従業員を雇用**している企業に対して、雇用する労働者の**2.0%**に相当する障害者を雇用することを義務付けています（障害者雇用率制度）。

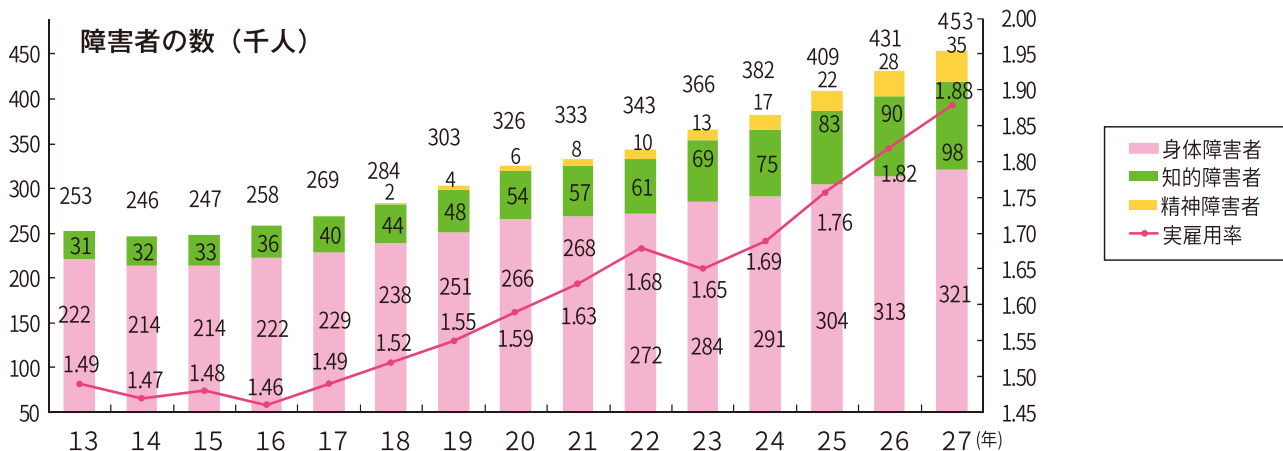


※ 短時間労働者は、1人を0.5人としてカウント。

※ 重度身体障害者、重度知的障害者は1人を2人としてカウント。ただし、短時間の重度身体障害者、重度知的障害者は1人としてカウント。

※ **精神障害者**については、雇用義務の対象ではないが、各企業の実雇用率の算定時には障害者数に算入することができる。

■障害者雇用の状況



常時雇用している労働者数が100人を超える障害者雇用率（2.0%）未達成の事業主は法定雇用障害者数に不足する障害者に応じて**1人につき月額50,000円**の障害者雇用納付金を納付しなければなりません。この納付金をもとに雇用義務数より多く障害者を雇用する企業に対して調整金を支払ったり、障害者を雇用するために必要な施設設備費等に助成したりしています（障害者雇用納付金制度）。



採用に際しての注意点

事業主は、募集・採用において、障害者に対して障害者でない者と均等な機会を与えなければなりません。また、賃金・教育訓練・福利厚生その他の待遇について、障害者であることを理由に障害者でない者と不当な差別的取扱いをしてはなりません。（障害者雇用促進法第34～35条/平成28年4月1日施行）



全国求人情報協会（全求協）では7月1日～9月30日までを障害者雇用キャンペーンとしております。

協会会員である「求人かごしま」でも障害者雇用促進の一環として、障害者雇用に関する求人募集を無料掲載しております。

薩摩の軌跡

Satsuma's locus

150年を振り返って

幕末～大政奉還までの主な出来事

1853 (嘉永6年) ペリー来航

1854 (安政1年) 日米和親条約締結
幕府への批判が高まり、
尊王攘夷運動が活発化1856 (安政3年) 篤姫 徳川家定の
みだいでこ
御台所となる1857 (安政4年) 鹿児島市磯邸内
(現・仙巖園)
ガス灯が付く

1858 (安政5年) 日米修好条約締結

1862 (文久元年) 初の日本語の新聞として
『官板バタビヤ新聞』が
刊行される

1863 (文久2年) 生麦事件

横浜に近い生麦村で薩摩藩
島津光久の大名行列の前を
イギリス人が横切り、島津藩
士達はイギリス人を斬ると
いう外国人殺傷事件が発生
しました。

1863 (文久2年) 薩英戦争

1865 (慶応元年) 薩摩藩英国留学生派遣

1866 (慶応2年) 薩長同盟

1866 (慶応2年) 坂本龍馬とおりょうが
鹿児島へ日本初の
新婚旅行に行く

1867 (慶応3年) 大政奉還

来年2018年に明治維新から150年という節目を迎えます。我等が薩摩藩はその改革に大きく貢献し、現代日本を創ったと言っても過言ではありません。そこで鹿児島県が歩んだ150年を様々な視点から振り返ってみたいと思います。

来年は鹿児島が舞台の大河ドラマも決定し、多くの観光客も見込まれています。これを機会に鹿児島の歴史・文化など知識をもっと深めましょう!

第一回 ペリー来航から大政奉還まで

1863 (文久2年) 薩英戦争

生麦事件の賠償を不服としたイギリスが進軍し、薩摩藩の汽船を拿捕。この実行行使に対し、薩摩藩は天保山砲台から英国艦船へ砲撃を開始し、薩英戦争の火蓋が切られました。

薩摩藩の砲台の有効射程がせいぜい1キロほどであるのに対し、英国の阿姆斯特朗砲は3～4キロほどもあり、薩摩の砲台のはるか頭上を飛んで、市街地の奥深くに着弾し炸裂しました。住民たちはあらかじめ避難していたため、死傷者数は少なかったのですが、城下の屋敷500戸以上が焼き尽くされ、薩

摩藩の砲台のほか、鹿児島城の一部や工場が建ち並ぶ集成館も艦砲射撃で破壊されたそうです。

この戦いから攘夷への考えを改めた薩摩藩は討幕の思想を持つようになります。また、イギリス側に軍艦購入の周旋を依頼したことをきっかけとして関係を深めていき、後の薩摩藩による英国留学生派遣へと繋がっていきました。

ちなみに、天保山砲台は1850年に完成。祇園之洲は砲台があった場所で薩英戦争の主戦場となったとされており、ユニークな形のモニュメント「薩英戦争記念碑」も建っています。

薩英戦争記念碑



1866 (慶応2年) 薩長同盟

当時、幕末の政治世界で影響のあった長州藩と薩摩藩は討幕の思想では共通していましたが、西郷隆盛・大久保利通らの薩摩は、1864年(元治元年)の会津藩と協力した八月十八日の政変や禁門の変で長州を京都から追放し、第一次長州征伐(幕長戦争)などで薩摩が長州を屈服させて以来感情的には敵対していました。



西郷 隆盛

坂本 龍馬

桂 小五郎

長州藩

当時倒幕派の先方であった長州を幕府は討ち滅ぼそうと、各藩に長州討伐を命じておりました。蛤御門の変や下関砲撃などにより朝敵とされたために武器の購入を禁止されていた為、攻められることになれば藩の存続に関わる状況になってしまいます。

薩摩藩

薩英戦争後の薩摩藩はイギリスや琉球藩との交流もあり財政や武力が潤っていました。それを脅威に感じた幕府が薩摩藩の国力を削ぐ為にも長州討伐を行わせ、長州の次は薩摩藩に矛先が向かうのではという心配が薩摩藩にはありました。

薩摩藩はできるなら倒幕をしたいが、裏切りともとられる倒幕運動の表には立ちたくない。長州藩は武器が欲しくてしかも倒幕もしたい。長州藩と薩摩藩の間にはこういった思惑がありお互いの利害は一致するわけです。

しかし、反目しあう藩を繋ぐことは容易ではなく、この時に坂本龍馬・中岡慎太郎の仲介の元、一度は不成立かとも思われた薩長同盟が結ばれ、着々と明治維新へと向かって行くのです。

1866 (慶応2年) 坂本龍馬とおりょうが鹿児島へ日本初の新婚旅行に行く

主な足跡

・塩浸温泉(しおひたしおんせん)

寺田屋事件で負傷した刀傷を癒すため、切り傷や胃腸病に効くとされている塩浸温泉へ行きここには18日間滞在したとされています。

・高千穂峰(たかちほのみね)

・犬飼の滝
・霧島神宮

龍馬ハネムーンウォーク in 霧島

昭和63年(1988年)に、坂本龍馬が新婚旅行で霧島を訪れてから120周年が経過したことを記念してスタート。龍馬たちが旅行したとされる3月に毎年、2日間にわたるウォーキング大会が開催され、多くの人がこのウォーキング大会へ参加しています。



新しいステージへ果敢に挑む、映広グループ

株式会社 鹿児島映広
tel.099-222-4444南日本出版 株式会社
tel.099-222-8611株式会社 映広
tel.099-222-4446LEAP出版 株式会社
tel.099-227-0890